創立150周年記念シンポジウム

テーマ

「2050年の私たち――世界・日本・秋田――」

創立150周年記念式典に続き、「2050年の私たち――世界・日本・秋田――」と題して、記念シンポジウムが開かれた。橋本五郎さん（昭和40年卒）のコーディネートで、進藤孝生さん（昭和43年卒）、丑田香澄さん（平成15年卒）、岡部大さん（平成20年卒）がパネリストとして登壇した。それぞれの高校時代を振り返って、2050年の未来を展望し、後輩へメッセージを送った。現役高校生からは近藤晄乃さん（2年、生徒会長）、畠山一皐さん（2年、生徒会執行部）が参加して、熱い議論を交わした。

橋本 自身がこれまで歩んできた道や培ってきたものを紹介してほしい。

進藤 秋田市保戸野の出身で、高校の入学式で、鈴木健次郎先生が「汝、何のためにそこにありや」と問い「学業とスポーツの両立」を求めた学校長式辞に感銘を受け、ラグビー部に入部し学業との両立を目指した。大学卒業後は「産業のコメ」と言われる鉄鋼を手掛ける新日鉄に入社し、人事や経営企画に携わってきた。世の中の変化が激しい中、企業経営はこの変化への適応に追われている。仙台育英高校野球部の須江航監督が「人生は敗者復活戦」と言ったが、企業経営もまさに敗者復活戦だと感じている。「汝、何のためにそこにありや」と「オナー・イズ・イコール」というチームワークの神髄を表すラグビーの言葉。この2つを座右の銘にして、50年間、会社員生活を送ってきた。

秋田から新しい価値観提供

丑田 秋田市広面の出身で、高校卒業後に首都圏に行き、現在は五城目町に移り住んで10年になる。中1の娘と6歳の息子がいる。これまでに取り組んできたことの1つ目は全国規模の子育て支援で、出産後の母親を地域で支援する「産後ドゥーラ」の起業だ。2つ目は五城目町を中心とした秋田のまちづくりで、秋田の資源を生かした田舎発の起業スタイルを広げる土着のベンチャー「ドチャベンジャーズ」の理事を務めている。秋田で起業したいという県外の人や地元の人が増え、朝市を盛り上げたいとか、朝市の近くにカフェやギャラリーを作りたいという人が次々に現れる10年だった。五城目は大学生や研究者、芸術家がいる田舎となり、「世界一子どもが育つまち」をスローガンに掲げている。少子化が進む秋田ではあるが、だからこそ何か世界に新しい価値観や事例を提供できるのではないかと信じて活動している。

岡部 高校時代はバスケットボール部に所属し、バスケットばかりやっていた。夜は真っ暗になる田舎道を自転車